



Title	商工会の業務とその役割について
Author(s)	吉岡, 憲一
Description	第一部: 第6回観光創造フォーラムの記録. 講演録. 基調報告2
Relation	次世代まちおこしとツーリズム : 鷲宮町・幸手市に見る商店街振興の未来 = Community Development and Tourism for the Next Generation
Citation	CATS 叢書, 4, 27-29
Issue Date	2010-03-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/42918
Rights	© 2010 吉岡憲一
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	departmental bulletin paper
File Information	CATS04_005.pdf



基調報告 2 「商工会の業務とその役割について」

吉岡憲一（鷺宮町商工会事務局長）

鷺宮町商工会事務局長の吉岡でございます。私はこのあとの3人の発表の前座ということで、商工会の業務とその役割について簡単に御理解いただけるよう、ご紹介をしたいと思います。

■鷺宮町の概況

鷺宮町には昭和47年から大規模な開発がありまして、実はその時、人口増加率で日本一になったこともございますが、昨年（2008年）は埼玉県で人口増加率が第一位になりました。

そういった町の商工会の役割についてこれから簡単にお話申し上げます。先ほどの昼夜人口比率も、実は今、埼玉県の中で一番低い数値で、いわゆる「埼玉都民」と言われているように、昼間は主に都心部などで働き、夜鷺宮町へ戻ってくるような働き方をしている町民の方が多いという場所なのです。

■商工会の役割

さて、商工会の役割についてです。商工会の本来の事業というものを少しでも皆さん方に御理解をいただければありがたいと思いますので、ここで若干の時間をいただいてお話をさせていただきます。堅い話ですが、「商工会法」という法律がありまして、商工会というのはこの法律で県知事の認可を受けた特別認可法人という位置づけになっています。そして商工会の役割は、いわゆる経営支援のための会員事業主さんの巡回訪問です。そして、その中で金融や税務、それから経営。そういったことの相談を行うと。これが、基本的な商工会の業務の一つ目です。

もう一つの役割は、いわゆる地域の活性化事業を行うことです。これは、行政が行うものと商工会が行うもの、全く立場は一緒です。行政も商工会も中心に立って、まちづくりを進めていく役割を担っているのです。

今、全国の商工会というのは、殆ど全国の市町村に一つずつございます。そういった意味で、今どんどん合併で自治体数が減少しておりますが、全国で1,905の商工会がございます。

■「商工会」と「商工会議所」の違い

よく皆さん方に聞かれるのが、商工会と商工会議所は一緒なのかという点です。時々、

メディアでも、「鷺宮商工会議所」と間違って紹介されることもあります。実は、どちらも業務内容は一緒なのですが、設立の条件、つまり設立の根拠となる法律が商工会と商工会議所で違うのです。

商工会議所の設立に際しては、商工会議所法に依るのですが、地区内の「特定商工業者の過半数の同意」が必要となっています。ここで言う「特定商工業者」とは、従業員が20人以上、サービス業や商業では従業員が5人以上いないといけないという条件があります。一方で商工会は、商工会法に基づくのですが、個人事業主が15人以上発起人となり、地区内の商工業者の2分の1以上が会員となれば設立できることになっています。そういった違いがあるということを知っていただければと思います。

■鷺宮町のまちづくりの課題

今、鷺宮町も、他の自治体と同様に、まちづくりにおいて様々な課題を抱えております。一つ目の大きな問題は、市町村合併です。来年（2010年）の3月一杯で、「合併特例法」の期限が切れます。そこまでに何とか合併をしようということで、全国の自治体が合併を模索しているわけです。鷺宮町を含む1市3町についても、来年3月22日を目途に合併の作業を進めています。合併はもうほとんど、99%確定です。それに合わせて、商工会のも今後3年を目処に、その法制上の合併を進めようという形で、これから協議に入っていこうという状況です。

もう一つは、大型店の問題です。実は、面積で150,000㎡以上、売場面積が56,000㎡という、大変大きなショッピングセンターが、今、鷺宮町内に造成中です。これも2010年にはオープンするということです。大型店と個人商店との差別化と言いますか、これが商工会にとっても非常に大きな課題ということで捉えています。よく言われるのが、個人商店は農耕民、大型店は狩猟民という言い方です。狩猟民は、お客が来なくなったり、駄目になったりしたら、もうそこで撤退してしまう。しかし、農耕民の個人商店の人々は地元で根を張って商売していますから、なかなかそこで撤退というわけにはいかない。そういったところで、どうしても差別化を図って生き抜いていかなければいけないのです。そういう面もあって、なんとか商工会と一緒に、地元個人商店の活性化のために何かやろうと考えてきました。これまで、これからの様々なイベントも、こういう背景もあって考えているのが実情です。

それと、どうしてもイベントとか、ものをやる場合には、今日もそうなのですが、行政との関わりが非常に大事です。地元町民はもとより、商工会と行政が中に入っていないと、その継続性というのはとても保たれないだろうと私は思っています。ですから、行政が常になんらかの形で参加をしたり、真ん中いたりしてくれて、継続性が保てるよう、行政との連携に心がけています。

■終わりに

そういう中で、マスコミにこうしたイベントなどを好意的に取り上げて頂きました。住んでいる町民は非常に嬉しいんです。自分の町の名前が良いニュースでマスコミに出るということは。故郷を感じる。こうしたことを通して、町民の皆さん方も、今までちょっと距離があったアニメや痛車も受け入れていったのだと思います。そうした文化を納得したというか。

もちろん時々足を引っ張られる記事もありますが、やはり、企画したイベントを実現していく、ということが、今後につなげる意味で重要だと思います。鷺宮町商工会は常に、頭を柔らかく心は広くということをもットーに進めています（笑）。

そういうことで、これから色々細かいお話もありますけれども、当初から町の活性化のために商工会が何をすべきかとか、そういう具体的目標や計画をもって始めたことではございません。今までの経過を見ると、これまでイベント等に御参加いただいた皆様方の御支援なり御理解があってこそ、ここまでやってくることができたと考えています。

今、昼夜人口比率がワースト1位という中で、どんなことをしていったら今後の鷺宮町が継続的に活性化できるのか、今後、アイデアを出して行って、それを実行していきたいと思います。普段から様々な物事を見て、そして聞いて、そしてまた動く。そして結果として町の活性化に繋がるよう、職員一同努力していきたいと思います。